

県南部で穂いもちの発生が懸念されます。
上位葉で葉いもちが確認された場合は、茎葉散布による防除を徹底しましょう。

現在の状況

- 1 水稻の出穂期（7月21日時点）は、県全体で平年（8月2日）より2日早いと予測される（農業改良普及センター生育診断予察圃、農作物技術情報（7月27日発表予定）参照）。
- 2 7月下旬の巡回調査（県内148圃場）では、全県における葉いもちの発生圃場率は平年並だが、地域別では、一関は37.5%（平年18.8%）、東磐井は40.0%（平年19.0%）で、平年より高かった（図1）。
- 3 BLASTAM（アメダスデータを用いた葉いもち感染予測システム）では、7月1日以降、複数の地点で感染好適条件が複数回出現している（表1）。
- 4 穂いもちを対象とした防除の実施率は約4割（令和4年度）で、近年は減少傾向である（図2）。

防除対策

○ 今後の気象に注意し、水稻の上位葉（止葉、次葉、第3葉）に発生がみられる場合は、以下により防除を徹底する。

- (1) 穂いもち防除を茎葉散布で行う場合は「出穂直前」、「穂揃期」の2回を基本とする。なお、既に出穂期を迎えている圃場では、防除時期を失しないように注意する。
- (2) 穂いもち予防剤を施用した場合であっても、圃場を観察し、上位葉に葉いもちの発生を確認したら、直ちに茎葉散布を行う。
「銀河のしずく」、「いわてっこ」、「どんぴしゃり」等、穂いもち防除の省略を計画しているところでも、8月上旬まで圃場内をよく観察し、上位葉で発生を確認したら茎葉散布による穂いもち防除を行う。
- (3) 予防剤や茎葉散布による防除に加えて、次のような場合には、穂揃い1週間後まで7～10日おきに茎葉散布による防除を実施する。
 - ・葉いもち（特に上位葉）の発生が多い場合
 - ・出穂期以降に降雨が連続したり、穂ばらみ期以降の低温等で出穂期間が長引く場合
 - ・薬剤は、以下の剤を中心に選択する。

ブラシン剤、ノンプラス剤、ダブルカット剤、トライフロアブル

注) ダブルカット剤は穂揃期までの使用

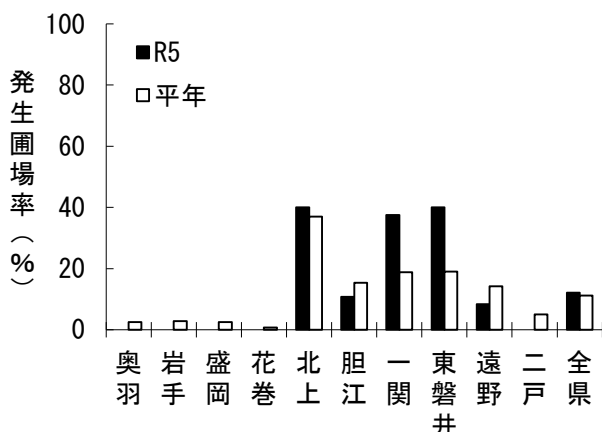


図1 地域別の葉いもち発生圃場率（7月下旬）

※ 発生程度微（発病葉率0.2%）未満を含む。

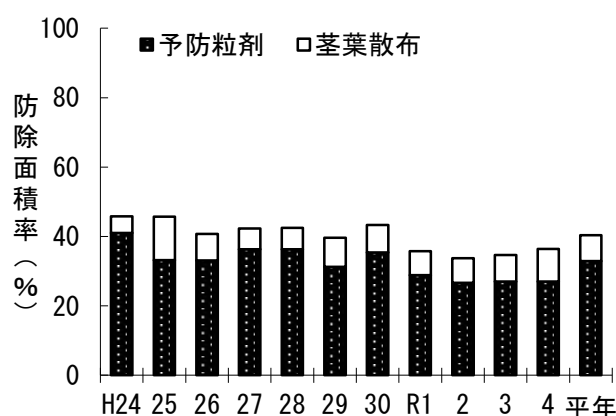


図2 穂いもち防除面積率の年次推移（市町村病害虫防除実績報告）

表1 令和5年 BLASTAM判定結果

月/日	← 県北部 →					← 沿岸部 →					← 県中部 →					← 県南部 →																					
	軽	二	荒	種	久	山	奥	葛	普	岩	小	宮	川	山	釜	大	住	遠	大	区	藪	岩	好	雫	沢	湯	盛	紫	北	若	江	一	千				
	米	戸	屋	市	慈	形	山	巻	代	泉	本	古	井	田	石	渡	田	野	迫	界	川	尾	摩	石	内	田	岡	波	上	柳	刺	関	厩				
7/1	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	◎	-	-	-	-	☆	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-				
7/2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
7/3	●	●	-	●	-	-	★	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	-	-	☆	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
7/4	-	◎	-	-	-	★	●	●	●	×	●	-	×	-	-	-	-	-	-	☆	☆	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
7/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	★	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
7/6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	-	◎	◎	-	-	-	-	●	●	×	☆	-	-	★	○	-	-	-	-	-	-	●	●			
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
7/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
7/9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-		
7/10	●	●	-	●	-	-	-	-	-	-	●	×	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	●	●	×	-	-	-	-	-	-	-		
7/11	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-		
7/12	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	★	-	●	●	-	●	-	-	-	-	●	●	-	★	●	-	-	-	-	●	-		
7/13	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	◎	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
7/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/15	◎	◎	●	○	-	◎	◎	-	-	-	×	-	-	●	★	-	-	●	●	○	-	-	●	●	●	●	-	◎	●	●	●	●	●	-	-		
7/16	●	●	●	-	●	●	●	●	●	●	×	-	●	●	★	●	●	-	-	★	●	●	-	-	●	●	-	●	-	-	●	●	●	●	●		
7/17	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	★	●	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/18	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	●	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	-	●	●	●	●	-	×	-	-	-	○	○	○	●	●	-	-	●	●	●	●	●	●		
7/20	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	×	-	-	-	-	-	-	×	○	○	○	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
7/21	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	-	-	●	●	-	●	●	-	-	●	●	-	-	-	-	●		
7/22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7/24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

凡例 ●:感染好適条件(前5日間の日平均気温が20~25℃で、感染好適葉面湿潤時間を満たしている)
 ◎:準感染好適条件(前5日間の日平均気温が20~25℃で感染好適葉面湿潤時間に1hr不足しているが、湿潤時間は10hr以上ある)
 ○:準感染好適条件(前5日間の日平均気温が20~25℃で感染好適葉面湿潤時間に2hr以上不足だが、湿潤時間は10hr以上ある)
 ☆:前5日間の日平均気温が18~20℃か25~27℃で、湿潤時間が10hr以上ある
 ★:☆条件であるが5日間の日平均気温が20~25℃になった前歴がある(感染好適条件と読みかえる)
 ×:判定不能
 -:感染好適条件なし
 感染好適葉面湿潤時間:感染に必要な葉面湿潤時間で10hr以上必要。湿潤時間中の平均気温により必要時間が異なる。
 補足 BLASTAMとは、気象庁のアメダス(AMeDAS)データを利用し、いもち病菌の感染に好適な気象条件がそれぞれの観測地点で成立したかどうかを判定するコンピューターを利用した発生予察システムのことである。

※ 6月30日以前の判定結果は、7月12日発表「令和5年度農作物病害虫防除速報 No. 7 (水稻編-3)」を参照のこと。

☆農薬危害防止運動実施中(6/1~8/31)☆

【利用上の注意】

- ・本資料は、令和5年7月19日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。
- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。
 アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

